

(1) 『福玉便り』を発行。埼玉県内の避難者に配布する。

・年間12回発行（月刊） ・発行部数は当面4000部。 ・A4版カラー刷り8ページ

印刷は、富士ゼロックス埼玉端数倶楽部さんの社員ボランティアにお願いする。

・内容

①避難者向け情報のシェア……現在と将来の生活を具体的に支えるための情報

1) 交流・支援活動の情報

2) 住宅、医療、子育て、仕事、教育などに関する生活支援情報

3) 賠償や避難元自治体・国の動き・制度などに動きに関する情報

②避難者の気持ちや考えのシェア

他の避難者がどんな気持ちで暮らしているのか、どんな悩みをもっているか。どんな決断をどんな理由でしているのか。自らのこれからを考えるための様々な視点や事例を紹介する。

・情報源：主に県内各地の避難者・支援者のグループからの提供と編集部による取材

・配布の方法：①上記各地のグループから手渡し（20団体約1250世帯）、②市町村を通じて配布し（約1550世帯）、③前記①②でつながらない方、および希望者には郵送で配布する（約400世帯）。

(2) 「福玉広域避難者支援会議」の開催

参加者：避難者・支援団体・行政などなるべく幅広くよびかける 50～80人程度

開催場所：さいたま市内の会場

開催回数：年4回

目的：埼玉県内に避難している方々の暮らしの状況・課題、支援団体・動き、今後の支援・活動の方向性、これらをなるべく広く共有していくための時間にする。避難当事者、支援者のリーダー、行政関係者が顔を合わせ、互いに協力していくための出会いの場を目指す。

(3) 避難指示区域避難者ネットワーク推進事業

①県内各地で毎月開かれている交流会やイベントなどを訪問し、比較的少数の自治体（主に大熊町、南相馬市小高区）の避難者とのつながり（顔が見える関係）をつくる。

②避難元行政と密に連絡をとり、協働で、支援を図る

③ ①、②をふまえ、避難元自治体ごとの交流の場をつくる（計4回程度）

(4) 自主避難者当事者ネットワーク活動事業支援

①自主避難ママ対象の交流の場（イベント）を開催→夏、冬の2回（夏は福島に帰還した方々もお招きする。）

②『(仮)福玉便りプチママ版』を作成し配布（福玉便りにはさみこみ）→秋、冬の2回